CP600
CP400

USER'S MANUAL
日本語版

株式会社 サウンドハウス
〒286-0825　千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
http://www.soundhouse.co.jp　shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度は、CLASSIC PRO CP600/CP400ステレオ・パワーアンプをお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。パワーアンプの性能をフルに発揮させ、末永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用の前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作してください。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意ください。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにしてください。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用ください。
5. 定格電圧AC100V、50/60Hzで御使用ください。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意ください。
7. 信号の入出力端子に許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にしてください。

故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店もしくは輸入代理店までお問い合わせください。

コントロール・パネル

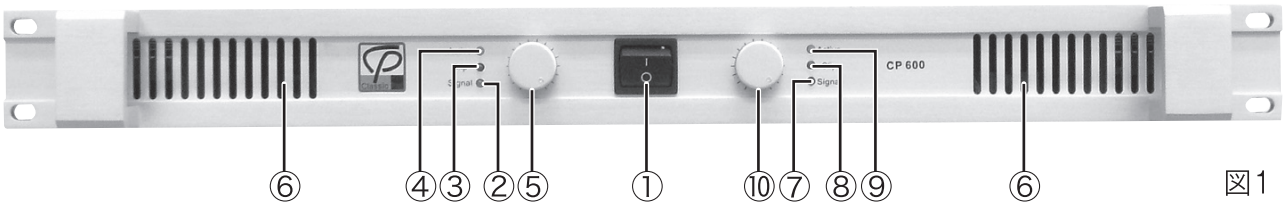


図1

1. 電源スイッチ
本体の電源をON/OFFします。ON/OFFの際はゲインコントロールを最小限まで下げてから電源を入れてください。機材の電源を入れる順番は楽器、次にミキサー、最後に問題なくすべて電源が入ってからアンプの電源を入れてください。

2. チャンネル 1 シグナル・インジケーター
音声信号が入力されると緑色のLEDが点灯します。

3. チャンネル 1 クリップ・インジケーター
チャンネル 1 への信号がオーバーロードしてクリッピングが発生すると、赤のインジケーターが点灯します。このままの状態ではチャンネル 1 の音声信号は歪んでしまいますので、接続しているミキサー等の機材の出力レベルを下げ、過大入力を防いでください。

4. チャンネル 1 アクティブインジケーター
アクティブインジケーターはパワーアンプをオンにした際、各種保護回路をチェックする間の数秒程、まず赤色に点灯します。その後、通常のオペレーティング・モードに入ると青色に点灯し、パワーアンプが使用できる状態になっていることを表示します。このアクティブインジケーターは、プロテクト回路が出力ショートやDC漏れを検知した際、赤色に点灯します。赤色のまま点灯し、青色に変わらない場合は、サービスセンターにお問合せください。

5. チャンネル 1 ゲイン・コントロール
このツマミでチャンネル 1 の出力信号を調節します。右に回すと出力レベルが上がります。

6. 冷却用通気孔
この通気孔から空気を取り入れることにより、本体の過熱を防ぎます。通気孔はふさいだりせず、常に清潔に保ってください。

7. チャンネル 2 シグナル・インジケーター
音声信号が入力されると緑色のLEDが点灯します。

8. チャンネル 2 クリップ・インジケーター
チャンネル 2 への信号がオーバーロードしてクリッピングが発生すると、赤のインジケーターが点灯します。このままの状態ではチャンネル2の音声信号は歪んでしまいますので、接続しているミキサー等の機材の出力レベルを下げ、過大入力を防いでください。

9. チャンネル 2 アクティブインジケーター
アクティブインジケーターはパワーアンプをオンにした際、各種保護回路をチェックする間の数秒程、まず赤色に点灯します。その後、通常のオペレーティング・モードに入ると青色に点灯し、パワーアンプが使用できる状態になっていることを表示します。このアクティブインジケーターは、プロテクト回路が出力ショートやDC漏れを検知した際、赤色に点灯します。赤色のまま点灯し、青色に変わらない場合は、サービスセンターにお問合せください。

10. チャンネル 2 ゲイン・コントロール
このツマミでチャンネル 2 の出力信号を調節します。右に回すと出力レベルが上がります。

リアパネル

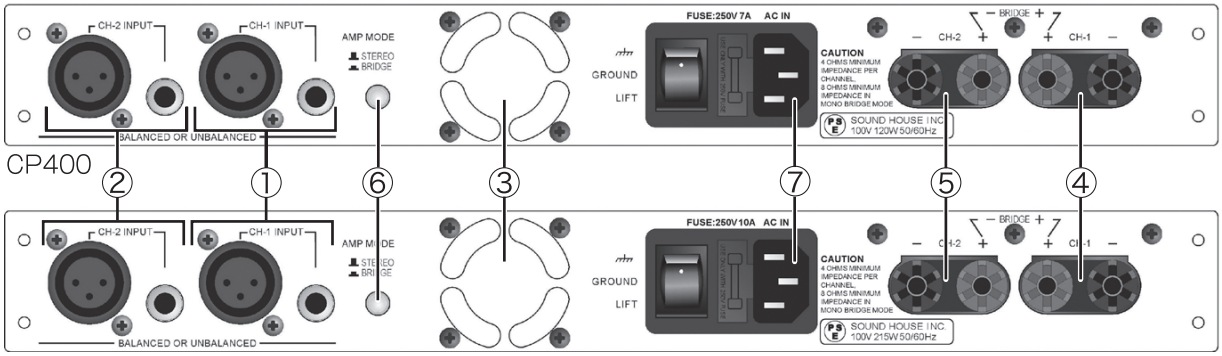


図2

1. チャンネル 1 入力

XLRとTRSフォン・プラグを接続可能な音声信号の入力端子です。TRSフォン端子はアンバランスフォン・プラグも使用可能です。またそれぞれの端子は並列接続になっておりますので、片方を入力、もう片方をパラレル出力用の端子として使用する事ができます。

TRSフォンプラグ設定：TIP/プラス、RING/マイナス、SLEEVE/アース

XLR端子設定：PIN3/マイナス、PIN2/プラス、PIN1/アース

2. チャンネル 2 入力

XLRとTRSフォン・プラグを接続可能な音声信号の入力端子です。TRSフォン端子はアンバランスフォン・プラグも使用可能です。またそれぞれの端子は並列接続になっておりますので、片方を入力、もう片方をパラレル出力用の端子として使用可能です。

TRSフォンプラグ設定：TIP/プラス、RING/マイナス、SLEEVE/アース

XLR端子設定：PIN3/マイナス、PIN2/プラス、PIN1/アース

3. 排気口

ツイン・スピードの冷却ファンによりアンプ使用時に内部を冷却します。前面の吸気口をふさいだり、密閉されたラックにマウントしないでください。アンプのオーバーヒート、故障の原因になります。

4. チャンネル 1 スピーカー出力（5ウェイ・バインディングポスト）

チャンネル 1 のスピーカー出力です。接続方法は6ページ目のセットアップを参照してください。

5. チャンネル 2 スピーカー出力（5ウェイ・バインディングポスト）

チャンネル 2 のスピーカー出力です。接続方法は6ページ目のセットアップを参照してください。

6. モノラル・ブリッジ/ステレオ切り替えスイッチ

このスイッチでステレオもしくはモノラル・ブリッジモードの切替を行います。スイッチを押さなければステレオ・モード、スイッチを押すとモノラル・ブリッジモードになります。

7. A/C電源入力

このケーブルを標準100V電源コンセントに挿入してください。必ずアンプの定格電圧と合致した電圧であることを確認してください。

オペレーティング・モード

1. ステレオ・モード

まず音源ソースの入力端子をアンプのチャンネル１、およびチャンネル２に接続してください。次にアンプ背面にある出力端子にスピーカーを接続します。この時、フロントパネル上にあるゲイン・コントロールが最小レベルまで下げられているのを確認して（最も左回りの状態）アンプの電源を入れます。次に入力ソースの出力レベルを上げます。出力音量を調節するには、フロントパネル上にあるゲイン・コントロールを使います。出力音量は、クリッピングが発生しない程度に上げてください。ただし、クリップ信号が時々点灯する程度ならOKです。

2. モノラル・ブリッジ・モード

アンプを含めすべての音響機材の電源がOFFであることを確認してください。ステレオ/モノラル・ブリッジ・スイッチをモノラル・ブリッジに切替えます。次に入力信号をチャンネル１に接続してください。次にアンプ背面に配置された、赤い出力バインディング・ポストの端子にスピーカーを接続します。ここで音響機材の電源をONにしてください（アンプの電源は最後に入れるようにしてください）。アンプに入力ソースの信号を送信します。アンプの出力レベルを調節するには、チャンネル1のゲインを操作してください。

モノラル・ブリッジ・モードでアンプを使用した場合、出力端子の電圧は全体で100V以上に達し、時にはそれ以上に高電圧になることもあります。よって配線は、完全に絶縁されたスピーカーケーブルを使ってください。また最小負荷は8Ω以上になるようにしてください。

セットアップ

1. 入力端子

１チャンネルにつき、2種類の入力コネクターが装備されています。XLR端子はバランス仕様対応です。TRSフォン端子はバランス/アンバランス・コネクターの両方に対応しています。これらの接続端子を使い、ミキサーやチャンネルデバイダー等の出力端子を接続します。5メートルを超えるケーブルを使用する場合、バランス仕様による接続をお勧めします。5メートル以内のケーブルの場合、アンバランス仕様のフォン端子も使用できます。既成のケーブルが多数出回っている為、アンバランス仕様のフォン入力は手軽な接続方法ともいえます。またそれぞれの端子は並列接続になっておりますので、片方を入力、もう片方を出力用の端子として使用する事ができます。

使用例：XLRケーブルをチャンネル１入力に接続します。チャンネル１フォン入力端子に接続したケーブルを、他のアンプのチャンネル１入力端子に繋いでパラレル接続をすることができます。

図3

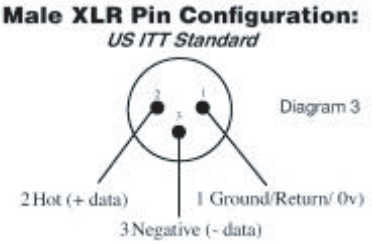


図4

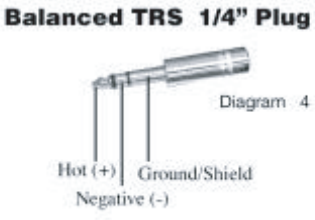
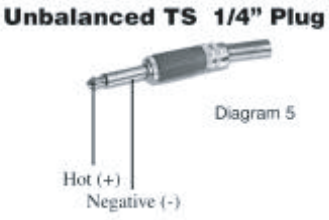


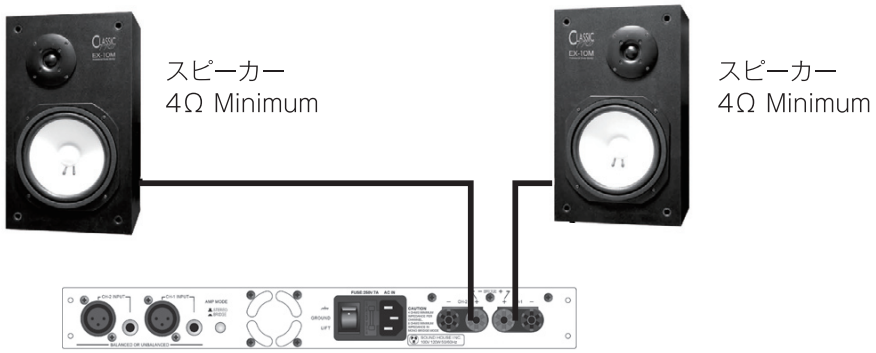
図5



2. 出力端子

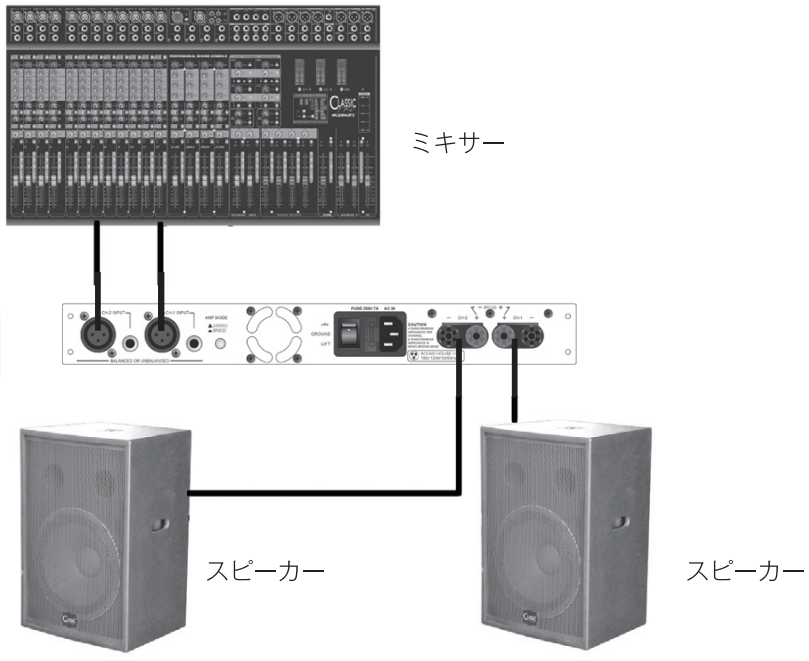
5WAYバインディング・ポスト/バナナプラグ：アンプ背面にあるバインディング・ポスト出力端子に、スピーカーを接続します。ステレオモードの場合、チャンネル１およびチャンネル２出力端子に接続します。スピーカーケーブルのマイナス・リードをアンプ バインディング・ポストの黒端子に、プラス・リードを赤端子に接続するようにしてください。モノラル・ブリッジ・モードの場合、チャンネル１およびチャンネル２それぞれの赤ターミナルに接続してください。正しい極性設定はスピーカーの位相反転を防ぎ、結果として低音が損なわれることを防止します。

モニタースピーカーを使用したステレオ出力接続例



PAスピーカーを使用したモノラル・ブリッジ接続例

PAシステムにおけるステレオ・セットアップ例



スペック

	CP600	CP400
出力	ステレオモード 200W＋200W（8ohm） 290W＋290W（4ohm） ブリッジモード 600W（8ohm）	ステレオモード 100W＋100W（8ohm） 130W＋130W（4ohm） ブリッジモード 280W（8ohm）
入力端子	XLR/TRSフォン	
出力端子	5WAY バインディングポスト	
周波数特性	20Hz～20kHz	
THD&N	0.05%（20dB～20kHz）	
入力感度	+4dBu	
入力インピーダンス	11kohm	
ダンピングファクター	200	
ハム＆ノイズ	-102dB	-100dB
ゲイン	40dB	
冷却機構	2スピードDCファン	
消費電力	215W	120W
寸法・重量	48.3(W)×4.4(H)×44.5(D)cm、11.9Kg	48.3(W)×4.4(H)×27.1(D)cm、6.6kg

保証書

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より１年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書きに基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期間は通常ご購入日より１年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取扱い方法が不適当（例：ボイスコイル焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷。もしくは、製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことによる故障及び損傷とみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動等）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の発送や持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、弊社指定の運送会社に限り着払いにて受け付けます。その際、下記RA番号が必要となります。沖縄などの離島の場合、着払いでの受付は行っておりませんので、送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

サウンドハウス宛に商品を送る際は、いかなる場合でもサポート担当より通知されるRA番号を必要とします。また、初期不良または保証期間内の修理における着払いでの運送についても、RA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状に明記してください。RA番号が無いものについては、着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損失等の損害に関して、サウンドハウスは一切の責任を負いません。

加えて、交換や修理等には当初の予定よりも時間を要することがありますが、遅延に関連する損害についても一切の責任を負いません。また、原則として代替機は、ご用意しておりませんのであらかじめご了承ください。

Classic Pro